

環境変化に対応できる知識や思考法を獲得 教養教育で、知の基盤をつくる

北海道大学 コアカリキュラム



細川 敏幸氏
高等教育推進機構
教授



亀野 淳氏
高等教育推進機構
准教授

現

在、多くの大学が教養教育に力を入れており、その内容は従来の“一般教養”とは異なる。

「激変する社会環境に対応できる、柔軟で幅広い知識の養成が大学に求められるようになったためです」と北海道大学・高等教育推進機構教授・細川敏幸氏は語る。また、教養教育は、対象とする分野が特定されていないため、大学の特色を発揮しやすい。1991年以降、専門教育重視の風潮があった時期でも、同大学が教養教育に注力した理由はそこにある。結果として、教養教育の変革にも比較的早い段階で着手し、2001年にはコアカリキュラムを構築した(図1)。従来の一般教養との大きな違いは、少人数教育とアクティブラーニングを取り入れた点だ。たとえば、一般教育演習は、23人を上限にしたゼミで、学生に対して授業への積極的な参加を促す。「また、科学教育も重視しています。文系・理系にかかわらず、技術の進展やそれによって生まれた問題など、科学の全容を理解させることが目的です」(細川氏)

現在、コアカリキュラムの開講数は1500を超え、学部以外の附属の研究組織なども授業を提供し、全学支援のもとで実施されている。

同大学では、教育の効果をさらに高めるため、2006年にも大規模な改革に着手し、予習・復習時間確保のた

めの履修上限の設定、GPA*1制度での成績の数値化、成績評価基準の標準化などの変更を行った。「こうした教育改革は、制度の内容だけでなく、教員の研修、学生への広報、そのあとの効果測定も重要」と細川氏は言う。

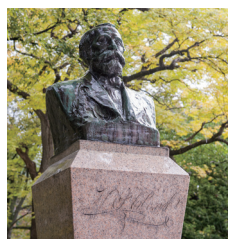
では、コアカリキュラムは、どんな効果を生んでいるのだろうか。高等教育推進機構准教授・亀野淳氏は、「コアカリキュラムだけの効果を見ることは難しい」としながらも、「2010年に行った企業調査では、『専門領域の知識』『専門領域外の知識』ともに高い評価をいただいています」と語る*2。また、卒業生に対するアンケート調査では、勉強を熱心にやった学生は、「専門的な知識だけでなく、教養も現在の仕事に役立っている」と回答している(図2)。「これは教養教育の成果と見ることもできます。論理的思考力や協調性など、仕事をするうえで必要になる能力を養成できているのでしょう」(亀野氏)

同大学は、2011年度には「総合入試」を導入。文系と理系の大枠で受験し、本人の希望と1年次の成績で学部を決定する。この効果が見えるのはまだ先だが、「学生が今まで以上に勉強するようになった」と細川氏は言う。

企業が採用過程で、大学での専門分野に関して問うことは多い。だが、教養教育によって社会で必要な力が育つならば、幅広く学ぶことの評価も考える必要がある。

北海道大学 コアカリキュラム

北海道大学では、「フロンティア精神」「国際性の涵養」「全人教育」「実学の重視」の基本理念に基づき、全学教育科目と専門科目、国際交流科目を提供している。全学教育とは、学部の壁を取り払って行われる授業で、1年生は全学教育科目である基礎科目とコアカリキュラム(教養科目)を中心に学ぶ。基礎科目には、文系基礎科目、理系基礎科目、自然科学実験があり、進路に応じて選択する。コアカリキュラムの科目は、それぞれの学問分野の社会的・歴史的な位置づけや将来の展望を包摂するもので、同大学の卒業生として、専門にかかわらず身につけてほしい内容になっている。



*1 GPA (Grade Point Average) とは、各科目の成績から特定の方式によって算出された学生の成績評価値のこと。アメリカの計算方式では、各科目の5段階評価(秀・優・良・可・不可)を0~4の数値に換算して合計する。留学の際に学力を測る指標となることから、日本においても、導入する大学が増えてきている。

*2 「北海道大学における教育・就職支援に関する企業ニーズアンケート調査報告書(対象481社)」の北大以外の新卒者との比較からみた北大新卒者の能力評価。

コアカリキュラムの科目構成 (図1)

コアカリキュラムの教育目標は、高いコミュニケーション能力、社会・文化の多様性の理解、創造的思考力と建設的批判能力、社会的責任と倫理の自覚であり、この目標を達成するための科目構成になっている。

① 主題別科目

担当教員の専門分野を一般学生向けに教養教育として展開する主題別講義。科目内容は、主として、将来その分野を専攻しない学生を想定して設計され、幅広い知識の獲得を目指す

思索と言語

哲学、倫理学、宗教学などの古典、あるいは現代の思索的課題と向き合う人々に学ぶことによって、根源的に考えることの基礎を形成する

歴史の視座

確固たる事実に基づいて論理的に考える訓練を通じて、歴史から何を学ぶかを考える

芸術と文学

「文学」だけでなく、より感性的で直接的なメディアを用いる「芸術」も手段として、古今東西の人間の営みを理解し自己を表現する能力を涵養する

社会の認識

社会のさまざまな現象を、政治・法・経済・社会関係といった個別の視角から考察し、視角相互の比較と関連付けによって、社会を総合的に理解する

科学・技術の世界

科学の論理と方法を身につけるとともに、技術が果たす役割とその思想を理解することを目指す

② 総合科目

文系・理系を問わず、複数の専門分野を連携し融合。さまざまな学問分野の教員が特定のテーマのもとにトピックスを提供する

環境と人間

地球環境の保全、維持のための基本的な考え方、自然に関する知識、技術、法律、経済などを総合的に学ぶ

健康と社会

医学や体育学の分野だけでなく、自然科学や社会科学の諸分野の協働によって、学際的な授業が構成され展開される

人間と文化

人間集団の生活様式全体を意味する文化を、多様な学問的視点から分析し統合することで、人間とは何かを問う

特別講義

総合的な主題について、総長、副学長、学部長、学外の学識経験者などが担当する、特別に企画された授業

③ 一般教育演習

1クラスの受講者20人程度のゼミナール形式の授業。学問を通して教員と学生、学生と学生がふれあう



写真は一般教育演習の1つ、水産学部所有の練習船でのフィールド演習（集中講義）。「教員の指示通りに動かないと、自分や仲間の命にかかわることもある。自分の行動に責任を持つ」という意味で、教育効果が高い」（細川氏）

④ 共通科目

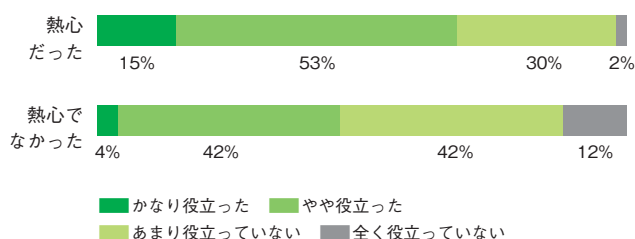
体育学・情報学・統計学
・インターンシップ科目

⑤ 外国語科目・外国語演習

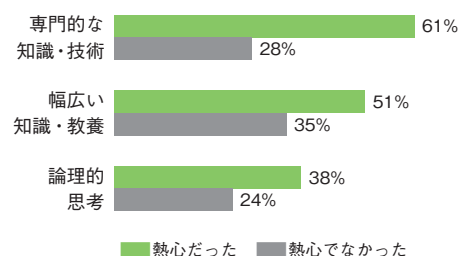
コアカリキュラムの教育効果 (図2)

大学で熱心に学んだ学生は、専門的な知識・技術だけでなく、幅広い知識や教養、論理的思考力を得たと回答している。

● 勉強の仕事への役立ち度と大学時代の勉強の熱心度の関係



● 大学で得たものと勉強の熱心度の関係



出典：北海道大学「北海道大学卒業生に対するアンケート調査」(2007)